

企業システムの青写真

オフィス業務を支える情報技術とアーキテクチャの全貌

個人業務の生産性向上



企業が実践するIT



企業におけるワープロや表計算は、高度なシステムを活用するための「基礎的なツール」に過ぎない。



パソコンの保有

大企業: ほぼ100%
中小企業 (20人以上):
80%以上

事務部門の各人に1台、
または2~3人に1台配置



インターネットとメール

40%の企業が事務
部門の全社員に
アドレスを付与

専用回線からインターネットへ
の移行



大型コンピュータ

大量のデータを迅速に
処理するため、依然として
重要な中枢として稼働

企業ITインフラの進化パイプライン

10Mbps

テキストベースの通信

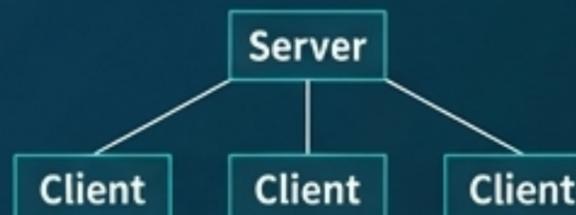
100Mbps

イントラネットの普及とグループウェア

1Gbps

高度なCSS（クライアント・サーバシステム）とEUCの本格推進

CSS（クライアント・サーバシステム）



目的はグループウェアやEUCの推進。
しかし、システム運用費用の増加という課題も内包。

The Three Pillars of Enterprise IT

基幹業務系
システム

正確・迅速

受注や伝票など
反復業務の処理

情報検索系
システム

分析・計画

必要な情報を
検索・加工し業務改善

コミュニケーション
系システム

共有・活性化

情報伝達と組織の
ナレッジマネジメント

全体を支える情報システム部門とネットワークインフラ

BPR（業務改革）の基盤



単なる電子化ではなく、システム化に合わせて仕事の仕方を抜本的に変える。
システムが「業務のやり方を規制する」。

企業ITの双発エンジン

基幹業務系

情報検索系

主な目的

効率化、正確性、省力化

業務改善、計画立案、問題解決

処理の性質

定期的・定例的・反復的

随時・非定例的・柔軟

主な操作者

情報システム部門（設計・運用）

エンドユーザ（自主的な活用）

データの流れ

データを「入力・蓄積」する

データを「抽出・加工」する

EUCデータファネル

基幹業務の生データ

データウェアハウス

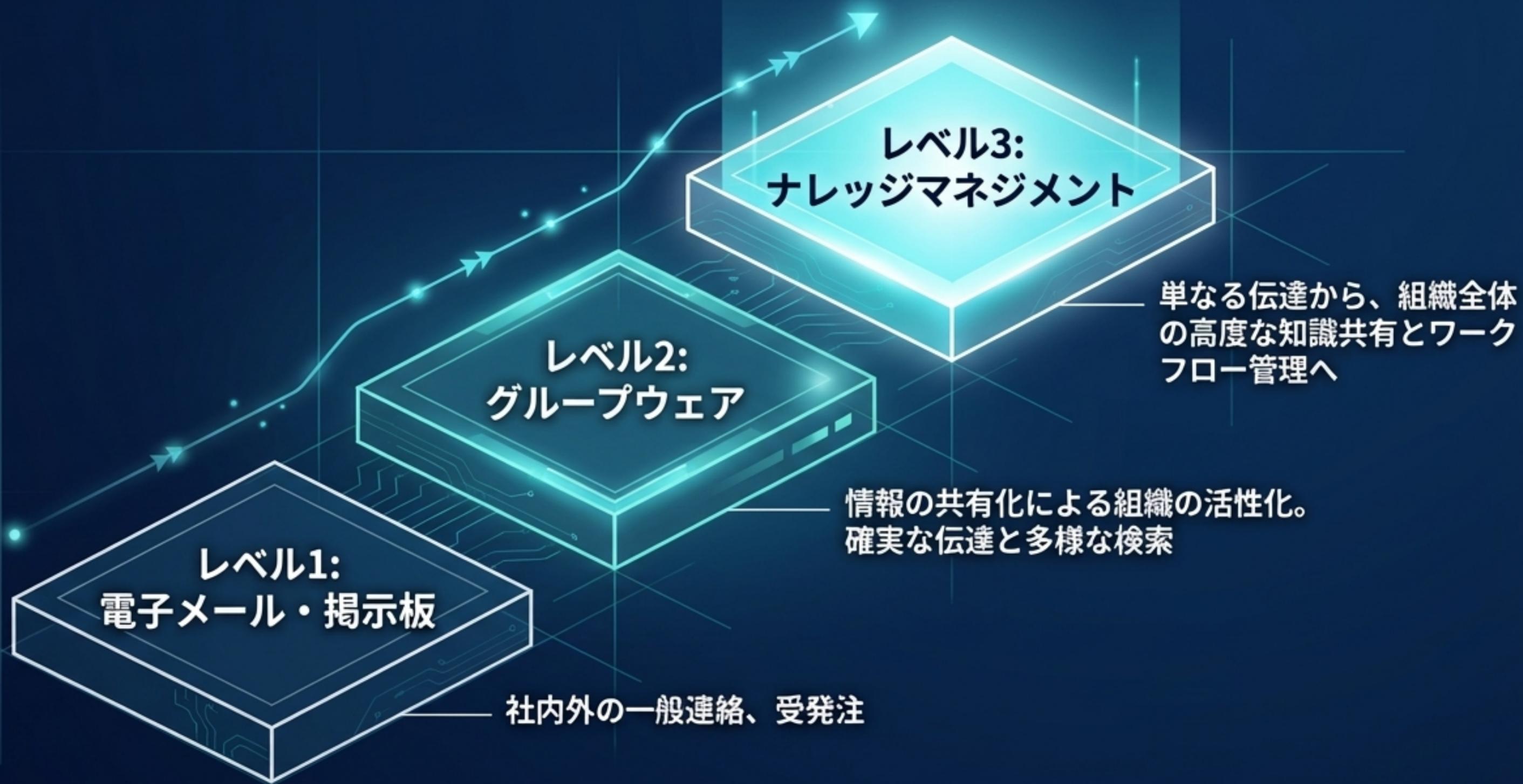
エンドユーザが利用しやすい
形式に変換・蓄積

営業支援

各種分析

EUC (エンドユーザ・コンピューティング)
必要な人が、必要な時に、使いやすい
ツール (表計算など) で多様な切り口から検索・加工

IT成熟度モデル: コミュニケーションの進化



重心の移動

過去



補完的な情報系

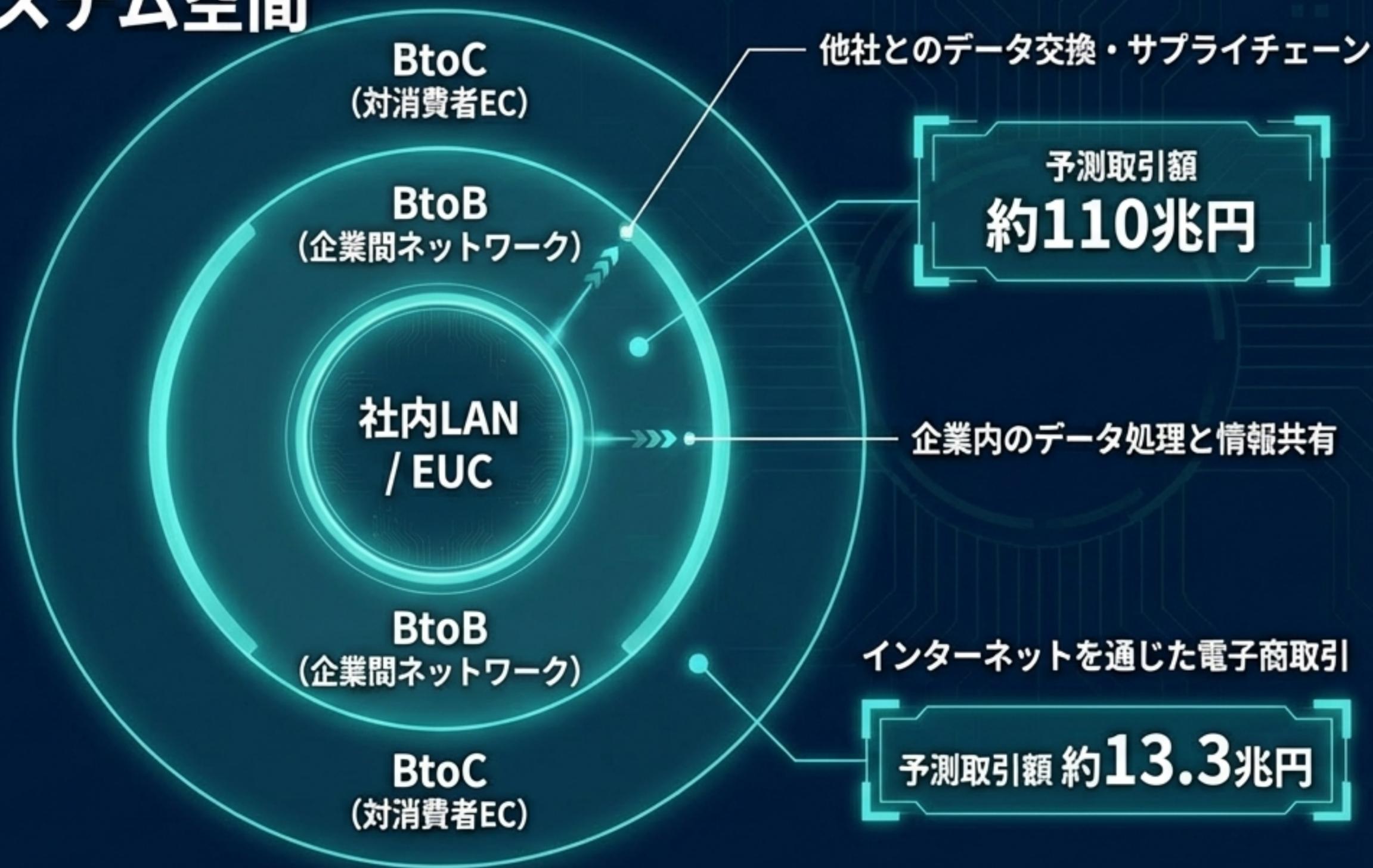
現在



情報検索系が主目的となり、基幹系は「正確なデータを提供する裏方」へ

コンピュータの歴史は、EUC（大衆化）発展の歴史。
「計算機」から「コミュニケーター」への進化。

拡張する情報システム空間



情報システムは「社内処理」の枠を超え、世界規模の取引空間を形成する。